

2023年6月7日 産業構造審議会 第10回通商・貿易分科会

「対外経済政策を巡る最近の動向—国際経済秩序の再構築に向けた日本の役割—」

コメント

渡邊真理子（学習院大学）

問1 WTO システムのアップグレードが、効果的かつ持続的な「経済安全保障」である。

- ・「デリスキング」とは、このルールによる規律付のアップグレードと考える。
- ・安全保障の高度化＋自由貿易が自国の政治目的を優先する意図に歪められないための仕組みを同時に行う必要がある。
- ・経済的威圧は、自国の政治的目的のために自由貿易ルールを歪めるものであるので、徹底的な規律づけが必要。
- ・細分化したグループでの経済制裁は、効果が薄く、副作用が大きい。
- ・産業政策に関する規律づけは、「能力の構築行為」そのものではなく、「公正性」つまり、「自国優先」「競争歪曲」を対象とすべき。

問3 産業政策とは、多層・多重・複合的であり政策であり、単なる補助金供与ではない。

- ・アイグナーとロドリック（2020）は、各国の経験から産業政策の成否を分類し、「韓国、中国、台湾の産業政策は正の外部性を生み成功。トルコは失敗、日本は不十分な成功」と結論づけている。
- ・根本的には、特定の産業の成長には不確実性があるので、技術の発展の方向性、経済成長の方向性に関するリスクを十分に検討し、「可能性のある分野の方向性のメニューを提示し、民間投資を呼び込む」のが、国家の役割である。
- ・長期的な計画と相応の国家の能力が必要である。中国は、各省・各都市レベルで社会科学系の研究スタッフを多く抱え、市場メカニズムを活かすために必要な情報の収集、分析、計画の策定を行っている。
- ・残念ながら現在の日本には、こうした産業政策を実行する体制が整っていない。

問5 WTO システムのアップグレードへの貢献

- 1) ルールアップグレードに関する日本からの提案件数
- 2) 紛争解決システムの積極的活用
- 3) CPTPP,APEC,RCEP をルールづくりのアリーナとして活用する

以上